

2025 年度

(令和 7 年度)

事業報告書

自 2025 年4月 1日

至 2026 年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

1. 映画祭事業

名 称：第 38 回東京国際映画祭

主 催：公益財団法人ユニジャパン(第 38 回東京国際映画祭実行委員会)

共 催：経済産業省
国際交流基金(アジア文化交流強化事業)
東京都(コンペティション部門、ユース部門、ウィメンズ・エンパワーメント部門、アジア学生映画コンファレンス部門)

期 間：令和 7 年 10 月 27 日(月)～令和 7 年 11 月 5 日(水)

企 画：コンペティション、アジアの未来、ガラ・セレクション、ワールド・フォーカス、NIPPON CINEMA NOW、日本映画クラシックス、ユース、アニメーション、TIFF シリーズ、黒澤明賞授賞式、黒澤明の愛した映画、TIFF ティーンズ映画教室 2025、国際交流基金×東京国際映画祭 co-present 交流ラウンジ、ウィメンズ・エンパワーメント、アジア学生映画コンファレンス 他

会 場：東京ミッドタウン日比谷、東京宝塚劇場、TOHO シネマズ日比谷 SC12 をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・ホールを使用

後 援：総務省／外務省／観光庁／千代田区／中央区／(独)日本貿易振興機構／国立映画アーカイブ／(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／(特非)映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／(公財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／(一社)デジタルメディア協会

助 成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画祭支援事業)

プラチナムパートナー：
(株)木下グループ

ゴールドパートナー：
日本コカ・コーラ(株)／(株)カプコン／(一社)日本地域コンテンツ振興協会

シルバーパートナー：
三井不動産(株)／三菱地所(株)／TVS REGZA(株)

ブロンズパートナー：
太陽生命保険(株)／大和ハウス工業(株)／(株)バンダイナムコホールディングス／(株)帝国ホテル／(株)IMAGICA GROUP／住友商事(株)／(株)大和証券グループ／中国国際航空

トランスポートパートナー：東京地下鉄(株)／東京都交通局／トヨタ自動車株

コーポレートパートナー：

松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／(株)KADOKAWA／日活(株)／(一社)映画演劇文化協会／(一社)日比谷エリアマネジメント／東京ミッドタウンマネジメント(株)／DMO 東京丸の内／Ligare 大丸有エリアマネジメント協会

メディアパートナー：

(株)J-WAVE／(株)WOWOW／日本映画専門チャンネル／LINE(株)／(株)ムービーウォーカー／ぴあ(株)／(株)ニッポン放送／Variety／The Hollywood Reporter／NTT スマートコネクト(株)／DEADLINE

フェスティバルスポンサー：

Dolby Japan(株)／全日本空輸(株)／クララ(株)／(株)エイチ・アイ・エス／(株)レントシーバー／GEM Partners(株)／東芝デジタルソリューションズ(株)／デジタメ(株)／(株)セレクトリンクス／インターコンチネンタル／AirdogJapan,inc

<開催概要>

第38回東京国際映画祭は、令和7年10月27日(月)から11月5日(水)までの10日間、前年に引き続き日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区にて開催され、上映とイベントを合わせて186,497人の動員となり、前年対比103%と動員数増を記録し、大盛況となった。日比谷を中心とした開催地に移転して6年目の映画祭となったが、公的な支援は例年並み、また、民間協賛社による協賛金は前年よりも増額となった全体予算での運営ができた。海外ゲスト招聘者数についても、前年度の2,721人から2,729人(内訳：審査員関係10人、作品ゲスト227人、海外プレス354人、映画祭関係者ほか264人、TIFFCOM 1,874人)と、前年対比増となり、海外ゲストと国内映画関係者との交流も拡充し、国際映画祭としての大きな役割を果たすことができた。

また、昨年は「東京から映画の可能性を発信し、多様な世界との交流に貢献する」との開催理念(MISSION)に則り、交流ラウンジのステップアップ(トークイベントの実施に加えてパーティ等の交流イベントを拡充)を図るとともに、一昨年に新設したウィメンズ・エンパワーメント部門において、女性プログラマーが選定した女性監督による国内外の作品の上映や、女性映画祭に関するシンポジウム、海外で活躍する日本の女性プロデューサーたちによるトークイベント等を開催した。また、映画の未来を担う人材育成に貢献すべく、アジア各国の映画学校が推薦する学生映画のコンペティション「アジア学生映画コンファレンス」を新規に実施した。

上映会場に関しては、昨年と同様 TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13、丸の内ピカデリー2、TOHO シネマズシャンテ、角川シネマ有楽町、シネスイッチ銀座、ヒューマントラストシネマ有楽町を活用、また、ヒューリックホール東京を追加で確保し、上映環境を整えた。また、引き続きオープニングセレモニー会場として東京宝塚劇場を使用し、東京ミッドタウン日比谷 1F の「LEXUS MEETS...」を交流ラウンジとして利用、千代田区の共催によりプレイベントである千代田シネマセレクションの会場としてベルサール神田、カスケードホールも利用するなど、広域での

映画祭開催が実現できた。

今年も昨年に引き続き日比谷でのオープニングレッドカーペットを三井不動産、東宝、日比谷エリアマネジメント、東京宝塚劇場、千代田区、丸の内警察の多大なるご協力のもとに実施し、観覧スペースを拡充した結果、前年対比 104%の観客・マスコミ動員数を記録し、大きな賑わいとなった。

そして、オープニングセレモニーを昨年に引き続き東京宝塚劇場で実施した。井野俊郎経済産業副大臣による来賓挨拶、カルロ・シャトリアン審査委員長以下のコンペティション国際審査委員の紹介、及び、阪本順治監督によるオープニング作品『てっぺんの向こうにあなたがいる』に主演した吉永小百合への特別功労賞の授与が行われた。

その後、『てっぺんの向こうにあなたがいる』を TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13、TOHO シネマズシャンテ 2 にて上映。更に、オープニングパーティーを東京會館にて開催し、都倉俊一文化庁長官、『MISHIMA』のポール・シュレイダー監督が登壇した。

また、「黒澤明賞」を今年度も実施。この賞を掲げる事で、引き続き世界の映画界に対し強く「日本(東京)」をアピールする事が出来た。(詳細は、自主企画(15)を参照のこと)

会期中は、上映会場、イベント会場も拡張し、国内外の映画祭関係者、プレスの皆様、一般のお客様が様々な形で交流できる場を創出する事が出来た。

最終日、クロージングセレモニーは、TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13 で実施。海外から参加の作品ゲストも多数呼ぶことができ、受賞者へのリアルな贈賞を行った。コンペティション部門の東京グランプリには、アンマリー・ジャシル監督による『パレスチナ 36』が選ばれた。

その結果、今映画祭の自主企画は 57 企画(うちリアル 42 企画、オンライン 15 企画)で、リアルな動員数は 186,497 人、オンライン動員数は 1,671,258 人となった。

< 自主企画 >

(1)コンペティション部門 (共催:東京都)

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2025 年 1 月以降に完成した長編作品を世界各国・地域から公募、厳正な審査を経て 15 作品が選定された。

各作品の上映時、来場したゲストによる舞台挨拶、及び、Q&A を実施し、観客との交流を深めることが出来た。

○ 国際審査委員

審査委員長:カルロ・シャトリアン(ジャーナリスト/作家/プログラマー)

審査委員:グイ・ルンメイ(俳優)

マチュー・ラクロー(編集者)

斎藤 工(俳優/映画監督)

ヴィヴィアン・チュウ(映画監督/プロデューサー)

○ 各賞の授賞結果

- ・東京グランプリ／東京都知事賞『パレスチナ 36』(監督:アンマリー・ジャシル)
賞金:300 万円
- ・審査員特別賞 『私たちは森の果実』(監督:リティ・パン) 賞金:50 万円
- ・最優秀監督賞 アレッシオ・リゴ・デ・リーギ、マッテオ・ゾッピス監督『裏か表か』、チャン・リ
ュル監督『春の木』 賞金:30 万円
- ・最優秀女優賞 福地桃子、河瀬直美『恒星の向こう側』 賞金:30 万円
- ・最優秀男優賞 ワン・チュアンジュン『春の木』 賞金:30 万円
- ・最優秀芸術貢献賞『マザー』(テオナ・ストウルガル・ミテフスカ監督) 賞金:30 万円
- ・観客賞 『金髪』(坂下雄一郎監督)※観客による投票で最高点
- [上映作品数] 15 作品
- [動員数] 14,098 人

(2)アジアの未来部門

日本を含むアジアで作られた、新鋭監督の 3 本目までの長編作品を対象にした、アジア・コンペティション部門。今年、日本映画は 2 作品を選出、全てワールドプレミア作品である計 10 作品より、最優秀作品賞が選出された。

- 審査委員 エレン・キム(釜山国際映画祭アジアコンテンツ&フィルムマーケット
ディレクター)
松永大司(映画監督)
西澤彰弘(東京テアトル株式会社編成担当)
- 受賞結果
 - ・作品賞 『光輪』(監督:ノ・ヨンワン) 賞金:100 万円
- [上映作品数] 10 作品
- [動員数] 3,979 人

(3)ガラ・セレクション部門

世界の映画を代表する日本公開前の最新作(公開未定作品含む)をプレミア上映する部門。本数も厳選し、計 16 作品となった。(オープニング作品、クロージング作品、センターピース含む)

- [上映作品数] 16 作品
- [動員数] 9,235 人

(4)ワールド・フォーカス部門

世界の国際映画祭で話題になった作品で、日本国内の上映予定がない作品をいち早く紹介する部門。今年はラテンビート映画祭との共催による 4 作品や、国立映画アーカイブとの共催による TIFFF/NFAJ クラシックス ブラジル映画週間、台湾文化センターとの共催による台湾電離ルネッサンス 2025～台湾社会の中の多様性、ベルギー王国フランス語共同体政府国際交流振興庁と

共催のワロン・ブリュッセル：ベルギーフランス語圏特集も上映。

- [上映作品数] 24 作品
- [動員数] 9,807 人

(5)NIPPON CINEMA NOW 部門

今年の日本映画を代表する新作セレクションを上映。特に、海外に紹介されるべき日本映画という観点を重視。

- [上映作品数] 9 作品
- [動員数] 3,783 人

(6)アニメーション部門

今年も藤津亮太氏にプログラミングアドバイザーを務めていただき、海外の話題作や国内の最新作を紹介。更に、シンポジウムや登壇イベントを実施し、映画祭全体の盛り上げに大きく貢献した。

- [上映作品数] 12 作品
- [動員数] 3,517 人

(7)日本映画クラシックス部門

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。本年度は、生誕 120 年成瀬巳喜男特集、追悼篠田正浩特集、生誕 100 年三島由紀夫特集他を上映。

- [上映作品数] 14 作品
- [動員数] 2,791 人

(8)ユース部門（共催：東京都）

日本の若い映画ファンの創出、映画クリエイターの育成を目的とした部門。

小学生までが対象の「TIFF チルドレン」では、恒例となった山崎バニラ氏による活弁イベント「山崎バニラの活弁小絵巻 2025」を上映。中高生が対象の「TIFF ティーンズ」では 3 プログラムを上映。

また、「TIFF ティーンズ映画教室 2025」では、小田香監督を講師に迎えたワークショップを実施し、3 チーム計 18 名の中高生が参加した。

- [上映作品数] 10 作品
- [動員数] 1,370 人

(9)TIFF シリーズ部門

インターネット配信等を目的に製作されたシリーズものの秀作を日本国内での公開に先駆け、スクリーンで上映する部門。

- [上映作品数] 1 作品
- [動員数] 565 人

(10)ウィメンズ・エンパワーメント部門 (共催:東京都)

女性監督による国内外の多彩な作品 7 本を上映するとともに、シンポジウム「女性映画祭の力」、トークイベント「ハー・ゲイズ」「東京から世界へー日本の女性プロデューサーが世界に進出するために」を行った。

- [上映作品数] 7 作品
- [動員数] 2, 597 人

(11)アジア学生映画コンファレンス部門(共催:東京都)

今回新設された本部門では、アジア各国の映画学校が推薦する 60 分未満の作品から選出された学生映画のコンペティションを実施。64 本の応募作の中から 4 か国・1 地域の 15 本を選び、以下の審査委員により作品賞、審査委員特別賞を授与した。

- 審査委員長 リティ・パン(映画監督)
 - 審査委員 クリスチャン・ジュヌ(カンヌ映画祭代表補佐兼映画部門ディレクター)
 - 審査委員 岡本多緒(俳優／映画監督)
- 受賞結果
 - ・作品賞 『フローティング』(監督:イ・ジュン) 賞金:30 万円
 - ・審査委員特別賞 『エンジン再始動』(監督:チョン・ヘイン) 賞金:10 万円
 - 『永遠とその 1 日』(監督:チェン・リーシュエン) 賞金:10 万円
- [上映作品数] 17 作品
- [動員数] 693 人

(12)国際交流基金×東京国際映画祭 co-present 交流ラウンジ

6 年目を迎えた交流ラウンジでは、世界各国・地域を代表する映画人のトークセッションを実施。

- ① 10 月 28 日(火) ピーター・チャン マスタークラス
- ② 10 月 29 日(水) 藤元明緒×ペンエーグ・ラッタナルアーン 対談
- ③ 10 月 30 日(木) 山田洋次×李相日 対談
- ④ 11 月 1 日(土) 三宅唱×リティ・パン 対談
- ⑤ 11 月 2 日(日) 是枝裕和×クロエ・ジャオ 対談
- ⑥ 11 月 3 日(月) アジア学生映画コンファレンスマスタークラス:『ヤンヤン夏の思い出』を振り返る
- ⑦ 11 月 4 日(火) アジア学生映画コンファレンスマスタークラス:深田晃司
- ⑧ 11 月 4 日(火) アジア学生映画コンファレンスマスタークラス:りんたろう
(動員数) 2,240 人(合計)

(オンライン視聴者数) 10,135 人(合計)

(13)エシカル・フィルム賞

本年度の全エントリー作品の新作の中から「人や社会・環境を思いやる考え方・行動」と定義した「エシカル」の基本理念に合致する優れた作品を選出。賞金 20 万円とトロフィーが授与された。

- [審査委員長] 池田エライザ(俳優／歌手／映画監督)
- [審査委員] 第 38 回東京国際映画祭 学生応援団
魚住宗一郎(慶応義塾大学 2 年)
須藤瑠美(獨協大学 3 年)
津村ゆか(東洋大学 4 年)
- [受賞者] 『カザ・ブランカ』(監督:ルシアーノ・ヴィジガル)

(14)第 38 回東京国際映画祭 特別功労賞

永年にわたり国内外を含めた映画界への貢献が目覚ましい方を顕彰した。

- [受賞者] 山田洋次(映画監督)、吉永小百合(俳優)

(15)黒澤明賞授賞式、及び、「黒澤明の愛した映画」上映

日本が世界に誇る故・黒澤明監督の業績を長く後世に伝え、新たな才能を世に送り出すため、世界の映画界に貢献した映画人、映画界の未来を託していきたい映画人たちを 4 人の選考委員により選考し、顕彰した。授賞式の後に、晩さん会が催された。また、「黒澤明が愛した映画」として 5 本の古今東西の名作を別途、上映した。(動員数:609 人)

- [選考委員] ※敬称略、順不同
山田洋次(映画監督)、奈良橋陽子(キャスティング・ディレクター)、
川本三郎(評論家)、市山尚三(TIFF プログラミングディレクター)
- [受賞者] 李相日(映画監督)、クロエ・ジャオ(映画監督)

(16)アニメ・シンポジウム

「長編アニメーションと映画祭」「『桃太郎 海の神兵』から『ペリリュー-楽園のゲルニカ』まで 国産アニメーションは戦争をいかに描いたか」「アニメーションだからできること」という 3 つのテーマについてのシンポジウムを実施し、その模様をオンライン配信。

- [企画数] 3 企画
- [リアル動員数] 209 人
- [オンライン視聴者数] 1,117 人

(17)上映作品の舞台挨拶のオンライン配信

上映時のリアル登壇挨拶も同時に配信・アーカイブの形を取った。従来は、映画を鑑賞した方しか見ることでない模様を幅広く鑑賞いただくことが出来た。

- [企画数] 107 企画
- [オンライン視聴者数] 90,451 人

(18)第 38 回東京国際映画祭@日比谷ステップ広場 屋外上映会

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場に高精細の LED パネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を開催。

- [開催期間] 10 月 28 日(火)～ 11 月 5 日(水)
- [上映作品数] 24 作品
- [動員数] 5,242 人

<共催・提携企画>

(1)TIFF/NFAJ クラシックス ブラジル映画週間

日本・ブラジル外交関係樹立 130 周年を記念し、1960 年代から現在のブラジル映画の代表作 6 作品を上映(ワールド・フォーカス部門の中での上映)。

共催:国立映画アーカイブ/LINHAS CULTURAL PRODUCTIONS

協賛:駐日ブラジル大使館/キマランイス・ホーザ文化院

会期:10 月 28 日(火)～11 月 2 日(日)

会場:国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU(2 階)

(2)千代田区・第 38 回東京国際映画祭共催企画「千代田シネマセレクション」

千代田区民が対象の上映会。過去の東京国際映画祭上映作品他から 7 作品を選定、2 作品は監督を呼んでの Q&A も行った。

会期:9 月 27 日(土)・28 日(日)・10 月 3 日(金)・4 日(土)

会場:ベルサール神田(9/27、28)、カスケードホール(10/4、5)

- [上映作品数] 7 作品
- [動員数] 1,125 人

(3)第 26 回東京フィルメックス

コンペティション部門 10 作品、特別招待作品部門 7 作品に加え新作日本映画を紹介するメイド・イン・ジャパン部門で 2 作品他を上映。

会期:11 月 21 日(金)～11 月 30 日(日)

会場:有楽町朝日ホール/ヒューマントラストシネマ有楽町

- [上映作品数] 28 作品
- [動員数] 11,000 人

(4)「PFF アワード 2025」グランプリ受賞作品上映 11月3日(月)

PFF アワード 2025 グランプリ作品『空回りする直美』、準グランプリ作品『BRAND NEW LOVE』を上映。上映後、監督、主演俳優によるトークを実施。

○ [動員数] 92 人

(5)「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2025」受賞作品上映 11月1日(土)

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2025 の SKIP シティアワードを受賞した『長い夜』を上映し、上映後に監督と出演者 4 名による Q&A を実施。

○ [動員数] 161 人

(6)日本映画監督協会新人賞、上映とトーク 10月29日(水)

空音央監督の受賞作品『HAPPYEND』の上映に続き、監督と主演俳優、選考委員長の大森立嗣監督によるトークを行った。

○ [動員数] 203 人

(7)日本映画監督協会シンポジウム「映適ガイドラインで現場はどう変わったか2」

10月30日(水)

中村義洋監督に、撮影監督、照明、録音、美術、スクリプター、装飾担当者も参加し語り合った。
会場:GLOBAL VILLAGE 有楽町ハウス

○ [動員数] 55 人

(8)MPA セミナー 10月29日(水)

豪州とタイの制作現場の紹介、日本とアメリカの共同製作、国際競争力についてのパネルディスカッションを開催。

会場:東京ミッドタウン日比谷 BASE Q

○ [動員数] 90 人

○ [オンライン視聴者数] 196 人

(9)ケリング「ウーマン・イン・モーション」 11月2日(日)

映画界で活躍する女性たちに光を当てるプログラム。

会場:TOHO シネマズ六本木ヒルズ

出演者:高畑充希(俳優)、中島健人(俳優/アーティスト)、デブラ・ゼイン(キャスティングディレクター)、福岡美由紀(プロデューサー)

○ [動員数] 104 人

(10)第 5 回みなとシネマフェスタ

11 月 23 日(日)～12 月 2 日(火)

港区内 5 地区 6 会場で開催し、障害者や未就学児との観覧など、幅広い方にお越しいただいた。

会場：赤坂区民センターほか

- [上映作品数] 6 作品
- [動員数] 724 人

(11)京都フィルムメーカーズラボ

12 月 2 日(火)～12 月 7 日(日)

選抜された国内外の若手映像作家が撮影所で時代劇撮影の実習を行う「ハンズオン時代劇」や、映像制作者がレクチャーを行う「マスターズセッション」が行われた。

会場：松竹撮影所、東映京都撮影所、京都文化博物館他

- [動員数] 1,900 人

(12)MPTE AWARDS 2025 第 78 回表彰式

10 月 28 日(火)

映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。

会場：時事通信ホール

- [動員数] 114 人

(13)映文連 国際短編映像祭 映文連アワード 2025

11 月 26 日(水)～11 月 28 日(金)

「プロフェッショナルが選ぶ、プロフェッショナルの仕事にふさわしい作品」を顕彰。

会場：国立新美術館講堂(表彰式)、新文芸座(上映会)

- [上映作品数] 36 作品
- [リアル動員数] 1,000 人
- [オンライン視聴者数] 300 人

(14)第 47 回ぴあフィルムフェスティバル

9 月 6 日(土)～9 月 20 日(土)

PFF アワード、70～90 年代の 8 ミリ映画、「ヌーベルバーグ」特集、PFF プロデュース新作『メイメイ』等を上映。

会場：国立映画アーカイブ

- [上映作品数] 59 作品
- [リアル動員数] 4,575 人
- [オンライン視聴者数] 2,495 人

(15)ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2025 秋の国際短編映画祭

10 月 22 日(水)～11 月 10 日(月)

グランプリ作品『破れたパンティストッキング』を含む受賞作を上映。

会場:オンライン/赤坂インターシティコンファレンス/東京都写真美術館ホール/LIFORK HARAJUKU

- [上映作品数] 63 作品
- [リアル動員数] 796 人
- [オンライン視聴者数] 163 人

(16) 2025 東京・中国映画週間 10月21日(火)～10月28日(火)

「2025 東京・中国映画週間」を開催し、パワーに溢れた最新中国映画をお届けした。

会場:TOHO シネマズ日本橋/有楽町朝日ホール

- [上映作品数] 11 作品
- [リアル動員数] 2,688 人
- [オンライン視聴者数] 2,624 人

(17)第 19 回田辺・弁慶映画祭 11月7日(金)～11月9日(日)

コンペティション部門作品 8 作品、招待作品 6 作品の計 14 作品を上映。

会場:紀南文化会館

- [動員数]3,000 人

(18)第 22 回ラテンビート映画祭 IN TIFF 10月28日(火)～11月4日(火)

4 作品をワールド・フォーカス部門にて上映。『波』のセバスティアン・レリオ監督が来日。

(19)サヤマ de シネマ vol.9 9月20日(土)～21日(日)

西武文理大学の学生による映画祭。初日には『敵』を上映し、吉田大八監督のトークセッションを実施、大盛況のうちに終了。

会場:狭山市市民会館小ホール

- [上映作品数] 4 作品
- [動員数] 1,072 人

<顕彰・助成>

- ①東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ②アジアの若手の優秀作品に対する顕彰(アジアの未来 作品賞)

<運営>

①自主企画の実施

先述の通り

②上映会場、各種会場

日比谷・有楽町・銀座地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13、TOHO シネマズシャンテ(2 スクリーン)、角川シネマ有楽町、ヒューマントラストシネマ有楽町 Theater1、シネスイッチ銀座(2 スクリーン)、丸の内ピカデリーTheater2、有楽町よみうりホール、ヒューリックホール東京、ベルサール神田、カスケードホール

・その他の会場：

東京ミッドタウン日比谷

日比谷三井カンファレンス：映画祭事務局、控室、プレスルーム

BASE Q：各種セミナー、ボランティア控室、弁当・ケータリング

LEXUS MEETS...：交流ラウンジ会場

日比谷ステップ広場：屋外上映会場

東京宝塚劇場、帝国ホテル、東京會館：各種イベント

有楽町駅前広場：チケットセンター、インフォメーションセンター等

③入場料金

- | | |
|--|------------------------------------|
| ○オープニング作品、クロージング作品 | 一般：2,600 円 学生前売・当日：2,100 円 |
| ○コンペティション | 一般：1,800 円 学生前売：1,400 円 学生当日：700 円 |
| ○アジアの未来 | 一般：1,800 円 学生前売：1,400 円 学生当日：700 円 |
| ○ガラ・セレクション | 一般：2,000 円 学生前売：1,600 円 学生当日：700 円 |
| ○ワールド・フォーカス | 一般：1,800 円 学生前売：1,400 円 学生当日：700 円 |
| ○NIPPON CINEMA NOW | 一般：2,000 円 学生前売：1,600 円 学生当日：700 円 |
| ○アニメーション(「アラーの紙にもいわれはない」「エッジ・オブ・タイム」デコラド) | 一般：1,800 円 学生前売：1,400 円 学生当日：700 円 |
| ○アニメーション(「桃太郎 海の神兵 デジタル修復版」) | 一般：1,600 円 学生前売：1,300 円 学生当日：700 円 |
| ○アニメーション(「Little Amelie or the Charaster of Rain」「ChaO」) | 一般：2,000 円 学生前売：1,200 円 学生当日：700 円 |
| ○アニメーション(「私はフランケルダ」) | 一般：1,800 円 学生前売：1,200 円 学生当日：700 円 |
| ○アニメーション(上記以外) | 一般：2,000 円 学生前売：1,600 円 学生当日：700 円 |
| ○ユース(ティーンズ/チルドレン) | 一般：1,800 円 学生前売：800 円 学生当日：700 円 |

- ユース(映画教室) 一般:1,600 円 学生前売: 800 円 学生当日:700 円
- TIFF シリーズ 一般:1,800 円 学生前売:1,400 円 学生当日:700 円
- ウィメンズ・エンパワーメント(「佐藤さんと佐藤さん」)
一般:2,000 円 学生前売:1,600 円 学生当日:700 円
- ウィメンズ・エンパワーメント(上記以外)
一般:1,800 円 学生前売:1,400 円 学生当日:700 円
- 日本映画クラシックス(「四月物語」「炎上」「剣」「三島由紀夫 vs 東大全共闘 50 年目の真実」「Shall we ダンス?」)
一般:1,600 円 学生前売:1,300 円 学生当日:700 円
- 日本映画クラシックス(上記以外) 一般:1,800 円 学生前売:1,300 円 学生当日:700 円
- サチライト・ピクチャーズ 設立 30 周年記念 一般:1,600 円 学生前売:1,300 円 学生当日:700 円
- アジア学生映画コンファレンス 一般:1,500 円 学生前売:800 円 学生当日:700 円
- ソイ・チェン マスタークラス 一般:1,800 円 学生前売:1,400 円 学生当日:700 円
- 黒澤明の愛した映画(「冬冬の夏休み」)
一般:1,800 円 学生前売:1,300 円 学生当日:700 円
- 黒澤明の愛した映画(上記以外) 一般:1,600 円 学生前売:1,300 円 学生当日:700 円
- 特別上映(「ヤンヤン夏の思い出」) 一般:1,800 円 学生前売:1,300 円 学生当日:700 円
- 特別上映(「愛殺」「イン・アイ・イン・モーション」)
一般:1,800 円 学生前売:1,400 円 学生当日:700 円
- 特別上映(「8 番出口」「GENERATIONS: The Documentary」)
一般:2,000 円 学生前売:1,600 円 学生当日:700 円
- 提携企画上映 一般:1,600 円 学生前売:1,200 円 学生当日:700 円
- TIFF エシカル・フィルム賞受賞作品上映
一般:1,800 円 学生前売:1,400 円 学生当日:700 円

④会期中の情報発信

・有楽町駅前広場の展開

映画祭期間中、有楽町駅前広場に、インフォメーションセンター、及び、チケットセンターを設置。同時に、上映作品のポスターの掲示や LED ビジョンを設置し、映画祭に関する情報発信の場とした。

・東京ミッドタウン日比谷 地下広場の展開

映画祭期間中、同時期実施の日比谷シネマフェスティバルと共に、ミッドタウン日比谷の地下広場空間に映画作品のポスター掲示等を行い、賑やかさを演出。

・東京ミッドタウン日比谷 アトリウム

映画祭初日のレッドカーペット終了後、レッドカーペットをアトリウム内に敷き、始点の映画祭ロゴタワーを設置。また上映作品のポスターボードも新設し、レッドカーペット参加俳優のサイ

ン入りボードも設置。

さらに、上映映画の作中で使用された衣装、小道具や車両の展示、劇中写真のパネル掲出も行い例年以上に賑わいを創出した。

- ・東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場における屋外上映の実施
自主企画(18)を参照。

⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらい試みも実施した。

⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、公式バッグ等を販売した。

⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。値段設定やオープニングレッドカーペット視聴の権利やオープニングセレモニーへの参加の権利等をうまく活用し、高額設定の枠は早々に売り切れるなど、大幅な参加者増及びクラウドファンディング開始後、最高額を3年連続達成する事が出来た。

<広報活動>

1.メディア登録者数

- 国内メディア:1,483 名 海外メディア 354 名
- パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施。
※渡航制限により海外プレスのビザサポート等渡航に関わる支援はなし。

2.国内宣伝パブリシティ

- 露出数:13,024(2025 年 12 月 12 日時点)
- TV 媒体広告換算値:12 億 1847 万 7915 円
- WEB 媒体広告換算値:116 億 8956 万 5638 円

例年通りオープニング時のレッドカーペットは爆発的な露出となったが、それ以外でも特別功労賞や黒澤明賞などのイベントが大きな露出となり、例年以上の露出となった。

3.海外宣伝パブリシティ

- 露出数:4,999
- 昨年に比べると中国圏での露出が減ったものの『MISHIMA』の上映などもあり、トータルとしてはほぼ例年通りの露出になった。露出した国と地域の数66で前年の60よりも伸びた。

4.記者会見

○ラインナップ発表会見 2025 年 10 月 1 日 BASE Q

○受賞者記者会見 2025 年 11 月 5 日 LEXUS MEETS...

5.国内宣伝広告 ……J-WAVE 各種番組出演・告知、WOWOW 過去作特集、LINE LIVE 企画、Movie Walker 特集・バナー広告、ぴあ特集・バナー広告、ニッポン放送番組出演・ラジオ CM・バナー広告

6.海外宣伝広告 ……Variety、Screen、The Hollywood Reporter（紙面およびバナー広告）

7.海外プレス招聘……アメリカ、イギリス、フランス、ブラジル、トルコ、中国、香港、韓国、台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、カンボジアから 29 名を招聘。

8. 宣材物

予告編……2025 年 9 月 19 日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル…大島依提亜氏デザイン、今泉力哉監督監修で架空の映画を想定したビジュアルでデザインを一新

紙媒体……プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

9.公式 WEB、SNS の展開

SNS 展開に力を入れ、X(旧ツイッター)のフォロワー数が 6.5 万人を突破。YouTube の公式番組「TIFF チャンネル」もチャンネル登録者数が 4.7 万人を超え、会期外も含めて戦略的に国内外へと発信。

<各 SNS フォロワー数>

○ X:63,985 / X(ENG):2,402

○ Facebook:23,960

○ LINE:37,227

○ Instagram:22,328

○ YouTube:47,391

10.Cyber TIFF

東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの模様はインターネットへの配信を実施。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与。

11.マーチャндаイジング

廃棄されるスクリーン素材を使った商材を東京テアトルさんと開発。SNS でのキャンペーンと絡めて、ユーザーから募った好きな映画のセリフが入ったブックマーク(しおり)全6種を販売。

(東京ミッドタウン日比谷での広報活動)

会期初日の 10 月 27 日(月)より最終日の 11 月 5 日(水)まで、東京ミッドタウン日比谷の屋外

大型 LED ビジョン裏面をはじめ華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場の賑わいを演出した。同様のビジュアルを館内のデジタルサイネージで展開した。また館内地下通路では数多くの作品ポスターを掲出した。

（銀座・日比谷・有楽町地区での広報活動）

各所のデジタルサイネージにおいて、映画祭のビジュアルとともに作品情報、イベント情報などを発信した。また同様のビジュアルを街頭フラッグで展開し、映画祭の賑わいを演出した。

- ① ミッドタウン日比谷正面入口ビジョン
- ② ミッドタウン日比谷館内ビジョン
- ③ 日比谷ゲートビジョン
- ④ 都営ステーションビジョン日比谷
- ⑤ 地下鉄連絡エスカレーター上部コルトン
- ⑥ 日比谷仲通りフラッグ
- ⑦ 丸の内ビジョン
- ⑧ JR 有楽町駅前広場特設ビジョン、作品ポスターボード
- ⑨ ミッドタウン日比谷アトリウム作品ポスターボード

（東京メトロでの広報活動）

東京メトロのご協力のもと、早いところで、10月2日～映画祭最終日まで、地下鉄内の車内広告をはじめ、映画祭実施地区周辺でのビジュアル展開、開催告知を行った。

- ① 東京メトロ全線車内窓上部広告
- ② 地下鉄構内 MCV ビジョン(大手町駅メインに主要駅)
- ③ 駅張ポスター(14 駅 36 枚)
- ④ 駅張ポスター大手町プレミアム(4 面)
- ⑤ 駅張ポスタープレミアム(有楽町駅・日比谷駅)

（東京都交通媒体での広報活動）

東京都交通局のご協力のもと、10月2日から11月3日までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出
- ③ 都バス窓上広告掲出
- ④ 車内「チカッ都ビジョン」による映画祭 CM 上映

2. TIFFCOM 事業

名 称: TIFFCOM 2025
主 催: 経済産業省／総務省／(公財)ユニジャパン
共 催: 第 38 回東京国際映画祭
期 間: 2025 年 10 月 29 日(水)～10 月 31 日(金)、3 日間
企 画: 映画・テレビ・アニメーションマーケット
原作・IP マーケット／企画・共同製作マーケット／セミナー
会 場: 東京都立産業貿易センター浜松町館
後 援: ※五十音順
(一社)映画産業団体連合会
(一社)外国映画輸入配給協会
(一社)コンピュータエンターテインメント協会
(一財)デジタルコンテンツ協会
協同組合日本映画製作者協会
(一社)日本映画製作者連盟
(一社)日本映像ソフト協会
(一社)日本経済団体連合会
(一社)日本動画協会
(独)日本貿易振興機構
(一社)日本民間放送連盟

<開催概要>

TIFFCOM2025 は、映画、TV、アニメーションのすべてのコンテンツがそろうアジア随一の国際マーケットとして、昨年に引き続き浜松町の東京都立産業貿易センター 浜松町館で開催。国内外から 322 件の出展、4,600 人を超える参加者があった。参加者のうち 41%が海外からの参加となっている。

(実績)

- | | | |
|----------|----------------------------------|-------------------|
| ○ 参加国・地域 | 46 の国と地域 | |
| ○ 出展団体 | 322 | |
| | 日本 128、中国 41、台湾 54、韓国 42、タイ 25 等 | |
| | ※ 初出展 スロバキア | |
| ○ 総参加者 | 4,610 人 | うち海外 1,905 人(41%) |
| ○ ビジター | 1,256 人 | うち海外 747 人(59.5%) |

日本 506、韓国 164、中国 110、台湾 75、香港 49、
タイ 54、欧州 90、北米 93 等

- 参加者業種 配給 23%、制作・製作 18.9%、放送 10.8% 配信 7.7%他
- 参加目的 ビジネスパートナー/人脈づくり 76.4%、購入 64.8%、
- 参加者の取扱いコンテンツ
 - ・映画 32.3%
 - ・TV(実写) 18.6%
 - ・TV(アニメ) 18.4%
 - ・映画(アニメ) 7.8%
- 出展者業種
 - ・制作／製作 30.3%
 - ・配給 20.1%
 - ・放送 17.8%
 - ・セールス 8.2%
- 出展者のセールス以外の活動
 - ・国際共同製作 60.0%
 - ・リメイク 24.0%
 - ・IP(知的財産権)21.0%
 - ・資金調達/出資 20.0%
 - ・ローカライズ 17.0%

昨年度よりもさらに国際共同製作や投資先プロジェクト探しなどを踏まえた人脈づくりやネットワークを目的とした参加者が増え、前年比 12.8%増の計 4,600 人以上の参加者で賑わった。

(重点施策)

(1)IP マーケットを”Tokyo IP Market: Adaptation &Remake へとリブランド

原作物(ストーリー)の映像化の権利を持つ出版社が参加する「Tokyo Story Market」の規模を拡大し、リメイク権を持つ映像制作会社も参加する「Tokyo IP Market: Adaptaion & Remake」へとリブランドした。会期初日には日本から参加の 6 社によるオープンピッチを開催し、3 日間で 17 か国の国・地域の 50 社から参加した業界関係者と昨年を大幅に上回る 129 件のミーティングを実施した。

(2)国際共同製作の活性化

第 6 回開催となる「Tokyo Gap Financing Market」では、東南アジアを中心とした優れた 23 企画(長編実写 15 企画、アニメーション 5 企画、イタリア企画 3 企画)を選出し、3 日

間で 442 件のミーティングを実施した。また、国際共同製作の推進に必要なテーマを扱うトークセッションを開催したほか、「TGFM アワード」を新設し、最終日に授賞式を行った。

(3)カンファレンスのさらなる拡充

3 会場にて 20 のカンファレンスを開催。「日本の IP」をテーマに世界展開のトップランナーによるキーノート、東南アジア諸国との国際共同製作や日本の放送局による海外展開の最前線などの他、タイ、中国、香港、韓国などアジアの国と地域からの多彩な情報発信が行われた。

1. Keynote

グローバル映像化で注目される日本 IP の未来

主催：(公財)ユニジャパン

2. Special Session

国際共同製作セミナー

～ケーススタディ&パネルディスカッション・東南アジア編～

主催：一般社団法人日本映画製作者連盟、(公財)ユニジャパン

3. Special Session

放送コンテンツの海外展開最前線

～国際共同製作からローカルコンテンツの可能性まで注目の最新事例を一挙紹介～

主催：一般社団法人放送コンテンツ海外展開促進機構(BEAJ)

4. Special Session

日本のアニメーションの海外展開最前線

主催：一般社団法人日本動画協会

5. ローカルからグローバルへー日本×イタリアのコンテンツ共創で拓く新たな地平

主催：読売テレビ放送株式会社

6. ソニー・ピクチャーズインターナショナルプロダクションズの

IP アダプテーション戦略

主催：ソニー・ピクチャーズ インターナショナルプロダクションズ

7. タイ BL & GL の魔法：世界を魅了する化学反応

「タイ発のボーイズラブとガールズラブ作品が世界中を魅了する」

主催：タイ国大使館 商務参事官事務所

8. 「日テレ、開国！ Gear Up, Go Global」日本テレビ グローバルビジネス戦略発表

主催：日本テレビ放送網株式会社

9. Inspiring Global Love for Japan ～TBS グローバルビジネスの挑戦と未来～

主催：株式会社 TBS ホールディングス

10. 中国映画プロモーション

主催：中国電影合作制片公司

11. 中国高品質映画・テレビコンテンツ推進カンファレンス
主催：チャイナ・パビリオン
12. 『中国映画ブルーブック 2025』『中国テレビドラマブルーブック 2025』
初版発表会
主催：北京大学映画・テレビ・演劇研究センター、浙江大学国際映画・
テレビ発展研究院
共催：中国電影合作制片公司
13. アジアのアニメーション：IP、物語、そしてグローバル展開の戦略
主催：文創産業發展處、香港電影發展局
協力：香港貿易發展局
14. トルコにおけるリメイクドラマのトレンドと日本ドラマの可能性
主催：日本貿易振興機構(JETRO)
15. 日韓 Producers Exchange
「日韓インセンティブ制度と選出プロデューサーの紹介」
主催：映像産業振興機構(VIPO)、韓国映画振興委員会(KOFIC)
16. 2025 上海視聴コンテンツショーケース
主催：上海文旅局、上海市ラジオテレビ局、上海市広播影視制作業行業協會
17. LG U+ Drama Premiere 2025: The Future of K-Drama,
Live with Stars of “LOVE PHOBIA”(ラブ フォビ ア)
The Future of K-Drama, Live with Stars of “Someday of Me”(未来の未来)
主催：KOCCA (LG U+)
18. ～アジアから世界を目指す～ 国際共同製作のロードマップを考える
主催：東京コンテンツインキュベーションセンター(TCIC)、Into Global
19. 2025 TUA-KAFA 長編企画共同開発ワークショップ・ピッチング
主催：ユニジャパン、韓国映画振興委員会(KOFIC)、
東京藝術大学(TUA)、韓国映画アカデミー(KAFA)、文化庁
20. MPA / DHU / TIFFCOM マスタークラス・セミナー &ピッチング・コンテスト 2025
主催：モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA) 、デジタルハリウッド大学(DHU)、
TIFFCOM

3. 国際支援

<国際展開支援>

(1)海外の国際映画祭・映画賞への出品支援(文化庁の委託事業)

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編

映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

(令和 7 年度支援実績)

① 支援内容と支援件数

- (A)支援対象映画祭公式部門出品への支援 申請件数 50 採択件数 43
(B)3 大映画祭長編メインコンペティション部門出品への支援 申請件数 2 採択件数 2
(C)支援対象映画祭映画祭公式部門出品への支援(個人からの申請)
申請件数 22 採択件数 21
(D)クラシック(デジタルリマスター3大映画祭出品時字幕制作)
申請件数 2 採択件数 2

② 選考

- (A)前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。
・前期(5 月～7 月) 申請件数 35 採択件数 31
・中期(8 月～11 月) 申請件数 35 採択件数 31
・後期(12 月～3 月) 申請件数 6 採択件数 6
(B)選考委員会のメンバーは以下の 5 名に委嘱した。
・坂野 ゆか(川喜多記念映画文化財団常務理事)・
・新藤 次郎(日本映画製作者協会代表理事)
・星野 哲(日本映画製作者連盟事務局長)
・石飛 徳樹(朝日新聞社編集委員)
・林 加奈子(元 TOKYO FILMeX ディレクター)

(2)日本映画・映像コンテンツの海外発信支援(文化庁の委託事業)

(主要映画見本市への「ジャパンプース」出展)

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画の情報発信拠点とする他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開活動を支援している。

○ 出展した映画祭

- (A)カンヌ国際映画祭(開催日程 5 月 13 日～24 日)公式出品作品 10 本
同マーケット(開催日程 5 月 13 日～21 日)
(B)アヌシー国際アニメーション映画祭(開催日程 6 月 8 日～14 日)公式出品作品
18 本
同マーケット(開催日程 6 月 10 日～13 日)W.I.P. 2 本

- (C)トロント国際映画祭（開催日程 9 月 4 日～14 日）公式出品作品 8 本
- (D)釜山国際映画祭（開催日程 9 月 17 日～26 日）公式出品作品 24 本
同マーケット（開催日程 9 月 20 日～23 日）
- (E)ベルリン国際映画祭（開催日程 2 月 12 日～22 日）公式出品作品 9 本
同マーケット（開催日程 2 月 12 日～18 日）

ジャパンプースの設置のほかに、若手日本人監督のプロモーションと交流を目的とした「日本人新人監督海外プロモーション」を実施した。期間中、業界誌 Screen International への日本映画の特集記事や「日本人新人監督海外プロモーション」参加監督の紹介記事の掲載を行った。

(3)国際共同製作支援(経済産業省の委託事業)

(二国間協定における取扱機関としての事務局業務)

弊財団は日中および日伊映画共同製作協定の取扱機関として指定を受けており、申請の受付および書類審査を行い、所管当局である外務省、経産省、文化庁による承認の事務局となる。

承認手続きに関しては、文化庁の「国際共同製作への支援」との合同説明会を実施、承認申請の書類審査を継続して行った。

①応募要項、応募様式の作成

②申請予定者向けの説明会開催概要

「日中・日伊映画共同製作協定承認／国際共同製作映画支援 合同説明会」

・日時:令和 7 年 12 月 17 日(水) 11:00～12:30

開催方法:オンライン会議システム

・参加者: 58 人

・参加省庁:経済産業省、外務省、文化庁

③ 承認審査会

・日伊共同製作協定審査会 令和 7 年 9 月 26 日(金)（書面審査）1 件（受付令和 6 年度分）

・日伊共同製作協定審査会 令和 7 年 12 月 15 日(月)（書面審査）1 件

審査委員は以下の 4 名に委嘱した。

・加藤君人 ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士

・古賀俊輔 株式会社ザフル 代表取締役

・田島 健 株式会社バジェットコントロール 代表取締役

・富山省吾 日本映画大学 理事長

<情報発信>

(1)海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database(JFDB)の運営

(国際交流基金との共同事業)

主に 21 世紀の日本映画に関して、公式日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。令和 7 年には日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、約 200 本を新規掲載し、JFDB アーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で約 7,100 作品以上のデータを収めている。海外販売をサポートするため映画マーケットでのセールス作品に特化したページ”Market Look”や、年間の特筆すべき作品を特集したページも掲載している。

(2)海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布

(文化庁の委託事業)

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、令和 7 年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

(Japanese Film 2026 の概要)

- ① 配布数：1,500 部(冊子)及びデジタル版
- ② 配布先：カンヌ、アヌシー、TIFFCOM(東京)、ベルリン、トロント、香港の各映画祭、見本市開催時に配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品：選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計：一般社団法人日本映画製作者連盟より協力を得て各種統計情報を掲載

<人材育成>

(1)「第 47 回 PFF」の共催(川喜多記念映画文化財団の補助事業)

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第 47 回びあフィルムフェスティバル(PFF)」に共同主催として参画した。

(開催概要)

- ・会期：2025 年 9 月 6 日(土)～20 日(土)
- ・会場：国立映画アーカイブ
- ・主催：(一社)PFF、(独)国立美術館 国立映画アーカイブ、
(公財)川喜多記念映画文化財団、(公財)ユニジャパン

(最終審査員)

- ・門脇 麦(俳優)
- ・関 友彦(プロデューサー)
- ・福永壮志(映画監督)
- ・山内マリコ(作家)
- ・山中瑤子(映画監督)

(受賞結果)

- ・グランプリ 『空回りする直美』 監督:中里 ふく
- ・準グランプリ 『BRAND NEW LOVE』 監督:岩倉 龍一
- ・審査員特別賞 『アンダー・マイ・スキン』 監督:細川 巧晴
『紅の空』 監督:瀬川 翔
『ロ-16 号棟』 監督:井上 優衣
- ・エンタテインメント賞(ホリプロ賞) 『空回りする直美』 監督:中里 ふく
- ・映画ファン賞(ぴあニスト賞) 『惑星イノウエ』 監督:鈴木 大智
- ・観客賞 『黄色いシミ』 監督:野村 一瑛

(東京国際映画祭での特別提携企画)

- ・PFF アワード 2025 受賞作品上映

(2) 芸術文化振興基金「クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業」

((独)日本芸術文化振興会の委託事業)

振興会からの委託を受け、国際的に活躍できる人材を育成する目的で、映画およびアニメーションの企画開発および海外展開活動における支援を行った。総括的なアドバイザーやメンターが伴走しながら、各企画にカスタマイズした活動費支援や渡航支援のほか、資金調達やクリエイティブ向上のためのスキル獲得、ネットワーキング支援マッチングを行った。

(総括アドバイザー)

映画: 市山尚三 (プロデューサー、東京国際映画祭プログラムディレクター)

アニメーション:井上伸一郎(合同会社 ENJYU 代表社員)

(育成対象者)

第1期 R6.10月～R8.3月のうちR7での主な海外活動

映画:

太田 信吾『煙突清掃人』

Marche du Film(フランス)

Sheffield Doc Fest industry(イギリス)

Doc Edge industry(ニュージーランド)

Doc by the sea(インドネシア)

TCCF Project Pitching(台湾)

European Film Market(ドイツ)

川和田 恵真『Life is Yours』

European Film Market Co-Production Market(ドイツ)

The Hong Kong - Asia Film Financing Forum(香港)

中西 舞『知らないあの子』

Marche du Film(フランス)

Frontieres International Co-Production Market[Short to Feature](カナダ)

Director's Lab(カナダ)

ACFM A+B Pitching(韓国)

Bangkok Asian Project Pitching(タイ)

European Film Market(ドイツ)

長谷井 宏紀『Kutheran』

Marche du Film(フランス)

European Film Market(ドイツ)

アニメーション:

『ホウセンカ』木下麦・伊藤裕史・神戸麻紀、アヌシー国際アニメーション映画祭 コンペティション部門

『MINT』(企画開発中)小森よしひろ アヌシー国際アニメーション映画祭併設マーケット MIFA 参加

『花緑青が明ける日に』四宮義俊 ベルリン国際映画祭 コンペティション部門

第2期 R7.10月～R9.3月のうち R7 での主な海外活動

映画:

金子 由里奈『観測者たち』

草野 なつか『知らない顔』 The Hong Kong - Asia Film Financing Forum(香港)

高橋 壮太『Bomb Beneath the Lake』

藤元 明緒『サマーレッスン』

吉原 裕幸『国道7号線』

アニメーション:

『HIDARI』(企画開発中) 小川育 アメリカ Creative Talent Network 参加